

I 先行的神の恵みへの感謝

1. 父なる神：神は、母の胎の内で人間一人一人をご計画をもって命、能力を与え造られた。偶然に生まれて来た人はいない。詩篇139：13-16。神は、大切なひとり子、イエス様をお与えになるほど、私達を愛しておられる。
2. 子なる神：キリストは、私達を愛し、私達の罪を負い、十字架で死なれた。三日目に死に勝利し、復活され、天に戻り、主を信じる私達に賜物を量り与えて下さっている。
3. 聖霊なる神：私達を愛し、主を信じる私達の心に宿り、私達に奉仕の為の能力、賜物を与えて下さる。私達の心に、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制の実を結ばせて下さる。感謝します！

II 神の究極の目的は、すべてのものをもう一度一つに結び合わせる事。1：10。教会の主な務めの一つは、それをこの世に表す事。「父よ。あなたがわたしにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。…あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるようになるためです」ヨハネ17：21。それゆえ、教会が一致を保つ事は非常に大切。そのためにキリストご自身が、牧師、教師を教会にお立てになる。牧師は、人間が考え出した職務ではなく、キリストご自身が、教会に立てられた、与えられた賜物。

①教会が牧師を祈り求め迎える時は、良く祈り、教会のかしらであるキリストの御心を求める。主が立てられた、与えられた器として招き、共に教会を建て上げる為に。

②招かれる側の人も、良く祈り、教会のかしらである主の御心を求める。共に教会を建て上げる為に。

③教会のかしらは、主ご自身。それ故に、教会員も牧会者も、常に御言葉と祈りを通して主の御心を求め従って行けますように。無牧の教会に主の御心の牧会者が主の時に与えられますように。J E C Aは、支え合う連合です。

III 主ご自身が、それぞれの教会に牧師をお立てになった目的。

1. 「聖徒たち（原語：神に献げられた、神に聖別され、取り分けられた、神のものとされたキリスト者。聖書の中でキリスト者を指す言葉で最も多いのは「聖徒」）を整えて」。クリスチャンは、洗礼がゴールではなく、洗礼はスタート。神は、一人一人を整えて、主の聖さと愛の御姿に成長させ続けられる。牧師はその御業の大切なお手伝いをする為に立てられる。牧師や主の働き人は神ではないので、牧師は神の協力者。主は「大牧者」（I ペテロ5：4）、牧師は、主に従う霊的副牧師、協力者。パウロの言葉＝「私たちは神の協力者」「私が植えて（福音を語り植え）、アポロが水を注ぎました（御言葉を語り、霊的糧を与え、励ました）。しかし、成長させたのは神です」I コリント3：9、6。

主の姿に整えられるのに必要な事＝

①牧師自身が悪から守られ聖さを保ち主の姿に成長させられ続ける必要がある。主の恵みと主の御言葉の通り良き管でなく、自分の罪で管を詰まらせているなら、礼拝の御言葉の恵みは、皆さんの心に届かない。祈りのノートや祈りの道しるべで、また、日々、数分でも牧会者の為に祈っていただきたい。すべての働き人に霊的戦いがある。

②洗礼準備と洗礼後クラスで整えられる。毎日の神との幸いな御言葉と祈りの交わり（デボーション）を教える。各自が実行し、その恵みを味わう。そこで養われる。※推薦：手引きの一つ＝「みことばの光」。旧約新約聖書を5年で読み味わえる。

③主が満ち満ちて下さる、臨在して下さる礼拝の素晴らしさを教え体験していただく。礼拝には、特別な恵みがあり、養われ、整えられる。説教者と教会員の祈りの支えの結晶である説教の御言葉で養われる。

④牧師が、きめ細かく心を配れるのは、20人から30人と言われる。ゼロから開拓をして、主の恵みで人数が増えたら、どうしたら良いのだろう。現在も、世界中に、教会員が、30人、100人、500人、1,000人、1万人以上の教会がある。どのようにして牧会がなされているのだろう。それは、小グループでの相互牧会である。当教会でも、「御言葉を分かち合い祈り合うセルグループ」や組織化されていなくても、自由に声を掛け合い、主にある交わり祈りで励まし合う相互牧会がなされている事を感謝したい。来春、若者担当の伝道師が与えられれば、若者達のセルグループも生まれたら幸いである。

⑤神は、私達を愛しておられるので、色々な出来事（失敗、試練、マイナスに見える事、辛い人間関係、神に拠り頼むしか道がない状況等）を通して私達を訓練し、主の御姿に整えて下さる。「整える」の原語は、「はずれてしまった骨を元に戻す」という意。私達は、いつの間にか、自分の罪の故に、神との良い関係から外れ、霊的な脱臼をしてしまう。※証し。そんな時、神は、御言葉や色々な出来事を通して、私達の罪に気付かせ、悔い改め＝神の方に方向転換させ、神のもとに戻して下さる。有り難い、感謝！

⑥悩みの相談を受ける。祈りつつ良く聴き、導かれる助言をし、共に神を見上げる。牧会は、時間を決められない。夜中もある。年代により家族の介護もある。祈りの支えなしにはできない。

## 2. 「奉仕の働きをさせ」。

①整えて奉仕の働きをしていただく面と祈りつつ奉仕をしながら整えられるという両面がある。

②奉仕をお任せする時の条件がある。それは、その人に、神の恵みへの感謝・へりくだり神と人に仕える心・真剣に祈る心があるか・支配的、独善的ではなく、他の人との協調性があるかである。新しい事をしようとする時に、これまでやって来られた人への感謝と新しいメンバーに祈りつつ相談し、心の準備を与え、一步一步進めていく人である。7節にあるように主は、主の賜物の量りに従って、それぞれそれに奉仕の為の賜物を与えておられる。牧師一人の奉仕だけでは教会は建て上げられない。一人一人に主が与えられた賜物を見、希望を聞き、無理のないように喜んでできる分をお任せし、互いに協力し合う。奉仕が重過ぎる時は軽くする。主は、祈り求める時、不思議に新しい奉仕者を与えて下さる。※証し。奉仕も献金も神の数えきれない恵みへの感謝から生まれるものを神は喜ばれる。奉仕は個人プレーではなく教会の業でなければならない。個人プレーだと、何かの事情でその方が出来なくなると、誰もその奉仕の内容が分からないという事態になる。それ故に、初めは一人で始められた奉仕も、少しずつ、複数の人が共に重荷を負うようにする。互いに協力する時、交わりが生まれ、新しい人々、次の世代が育てられて行く。相応しい奉仕は若者を育てる。※証し

3. 「キリストのからだ（教会）を建て上げる」。教会は、未信者との「関係作り伝道」と「救われた聖徒を愛をもって組み合わせ、結び合せ、共に神の教会を建て上げる、共に霊的に成長する」。「宣教と成長」のバランスが大切である。主に立てられた牧師は、このバランスを絶えず祈り求める。教会には、

①人々との関係作り伝道、神が送られた未信者を心から歓迎する心、態度、

②神が共に教会員とされた兄弟姉妹を互いに愛し合い、仕え合う心、態度の両方が大切である。仕える心、協調する心、これまで奉仕をして来られた人々を尊敬し感謝する心のない人を神は用いられない。教会には、教会員、求道者の為に日々、祈り支える牧師が必要であり、日々、牧師の為に祈り支える教会員が必要である。この祈りの支え合いで、神が働かれ、教会は建て上げられる。「祈りのノート」「祈りの道しるべ」等で祈り合い、神は働いて下さる。悪魔の誘惑に勝利する秘訣は、祈り合う事。

③牧師の側の祈り「私は、あなたがたのことを思うごとに私の神に感謝し、あなたがたすべてのために祈る」

ピリピ1：3、4。②牧会者の真剣な祈りの要請「私のためにも祈ってください」エペソ6：19